

八木山市民センター

「事例報告」

八木山市民センター
館長 小野 博

1. 八木山市民センターとは

(1) 施設

昭和30年代後半から40年代中ごろにかけて開発された八木山団地の豊かな自然にエリアを抱える住宅地に昭和62年4月にオープン

◆ 部屋数も大小7部屋 + 図書室・娯楽室、さらにはフルコートのバスケットができる人気の体育館があり、年間利用客約50,000人



1. 八木山市民センターとは

(2) 交通利便性

- ・ 地下鉄東西線「八木山動物公園駅」に隣接
仙台駅から12分というアクセスの良い立地
バスも「八木山動物公園駅」がバスのターミナルとして地域住民の「足」の利便性高い立地

(3) 立地環境

- ・ 八木山地域の最上部に位置し、最南端の町内からは足が向かない。また「坂」道のため、高齢者の利用に制約あり

2. 八木山地域の特性・変化

- 昭和40年代から大規模な住宅開発が開始された。
- その後、平成27年に地下鉄東西線が開通となった。

< 地域の主要施設 >

①教育機関

東北工業大学・仙台城南高等学校、仙台西高等学校、八木山中学校、八木山南小学校他

②アミューズメント

八木山動物公園、八木山ベニーランド

③放送機関

東北放送(株)

④大規模医療施設

仙台赤十字病院

⑤公共施設

太白消防署八木山出張所、仙台南警察署八木山交番

* そのほか、福祉関連施設多数

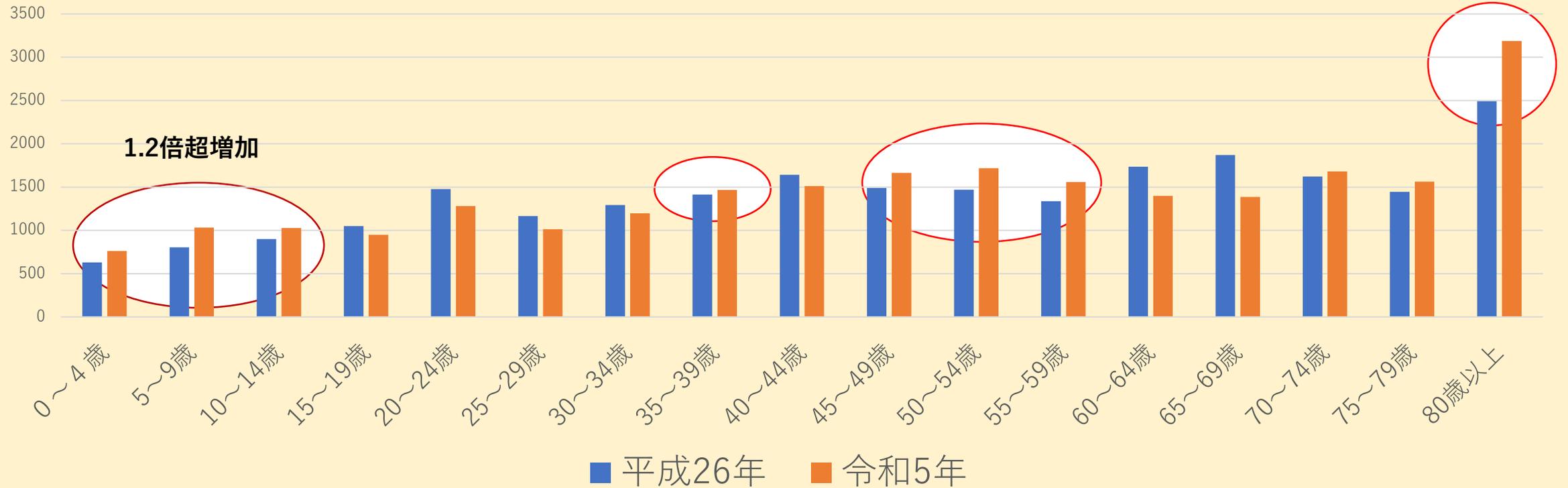
2. 八木山地域の特性・変化

人口増加年齢帯

(1) 年齢別人口推移

人口推移（平成26年：令和5年対比）

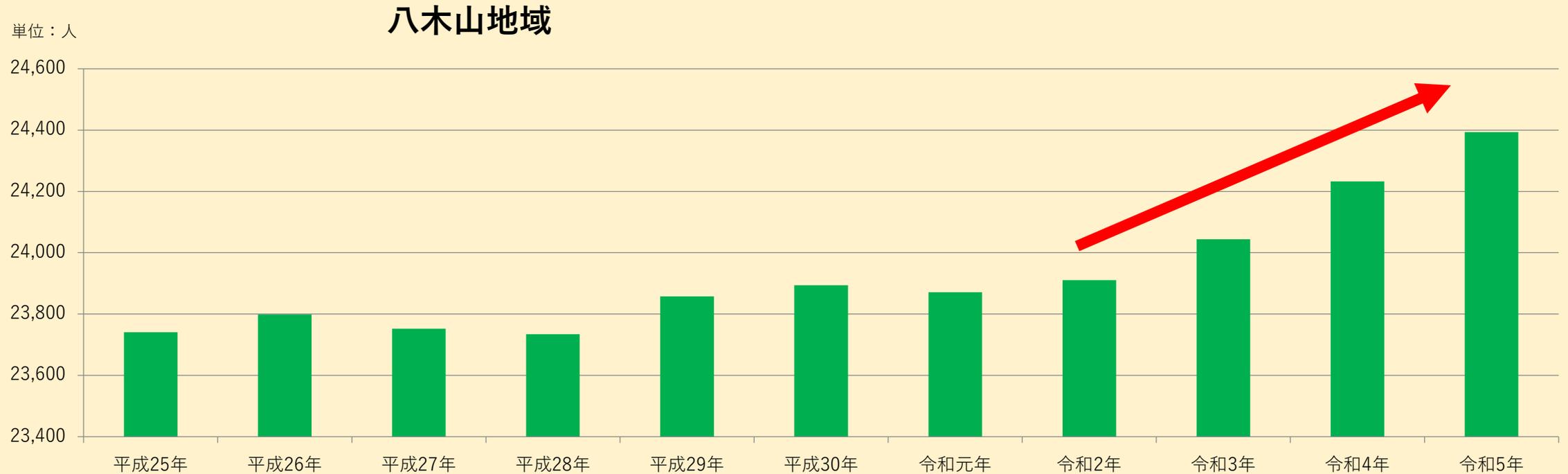
単位：人



平成26年との比較では、70歳以上の高齢者数の増加は見られるものの、未就学児童含め14歳以下の児童・生徒数の増加、30歳半ばから50歳代までの子育て層の増加が顕著。

2. 八木山地域の特性・変化

(2) 年代別エリア総人口推移



八木山地域の総人口の年別推移においては、地下鉄東西線開通を契機として、総人口増加に転じている。今後も若い世代を主に、人口増加が見込まれている。

3. 各種事業展開について

(1) 令和5年度実施事業

No.	事業名		連携団体・組織	補足	子供含対象
01	仙台市子ども会インリーダー研修会	講座			○
02	広げよう八木山防災の輪	講座	消防署・消防団・女性防火クラブ・東北工大	八木山中学校1年生防災授業	○
03	地域の絆プロジェクトでっかい夢を八木山に描こう	複数年	八木山ベニーランド・東北工大	中学生自主企画・運営（合計6回）	○
04	八木山の豊かな自然を散策しよう	講座	青葉山・八木山フットパスの会		
05	在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	講座	教師・託児ボランティア		
06	やぎやまシニア大学	講座	地域人財（知識人等）が講師	仙台城南高等学校吹奏楽部演奏	
07	フレイル予防講座 これからも自分らしく	講座	東北工大学生・仙台城南高校生徒、福祉施設支援		
08	地域防災シンポジウムin八木山	講座	仙台八木山防災連絡会	中学生企画参画（計3回）	○
09	金剛沢緑地を楽しもう	講座	金剛沢緑地愛護協力会・県民の森・おやじの会他		○
10	第35回八木山市民センターまつり	講座	地域人財・団体・学校関係者	小中学生児童・生徒企画運営参画（計8回）	○
11	秋の八木山フェスタ	講座	ベニーランド・動物公園・東北工大・東北放送他		○
12	気軽に懇話会	講座	地域利用団体・学校関係・地域団体		
13	おやじ達の企画会(市民企画)	複数年	地域・5小学校おやじの会	八木山・八木山南・芦口・金剛沢・向山	○
14	おやじ達の企画会を経て実施する事業	複数年	地域・5小学校おやじの会	八木山・八木山南・芦口・金剛沢・向山	○

事業の多くは、単発のイベントではなく、地域の団体・組織と連携し、関係を構築しながら実現を図り、センターが関係団体・人を繋ぎコーディネートする機能を持ち実施。

3. 各種事業展開について

①広げよう八木山防災の輪

- 八木山中学校1年生164名を対象に防災授業として実施→仙台市内中学校で唯一

* <2年生向け授業も別に実施>

中学生となり、これまでの「助けられる側」「支えられる側」から大人の一歩として、自らが「助ける側」として地域を支える意識の醸成を図る。

令和5年度は、太白消防署の指導の元、全員で救急救命入門講習を実施。

→簡易器材164体を配布し全員で実演

<連携>

太白消防署、太白消防署八木山出張所、
消防団八木山分団、女性防火クラブ八木山支部、
東北工業大学



3. 各種事業展開について

②地域防災シンポジウムin八木山

■「仙台八木山防災連絡会」との共催事業

- ▶ 地域の小学生から町内会役員等まで地域での防災について交流を通じ相互に学びあう場
- ▶ 5年度は、仙台西高の発表の後、防災ジオラマ作りを通じて地域の危険個所を共有
- ▶ 地域の中学生が、企画段階から参画し告知チラシ、当日の運営を行う

<連携>

八木山小・八木山南小・八木山中・仙台西高校・仙台城南高校・東北工業大学

仙台西高発表



防災ジオラマ作製



3. 各種事業展開について

③ でっかい夢を八木山に描こう

- 昨年度まで、ベニーランド・動物公園壁面に描画していた企画を、5年度からはベニーランド内複数個所に「でっかい夢」を描く企画として、地域の**中学生が企画員**として、全体構想から描画場所・テーマを決め、地域の小学生が保護者とともに参加。
- 当日の運営には東北工業大学・学生も支援。

* 記憶と記録として残る当センターの
人気事業として定着。



中学生による企画会

企画会で「全体テーマ」および「5年度テーマ」を決定
八木山中学生が描画



地域の小学生児童が、自ら考えた「未来のお菓子」を描画！

3. 各種事業展開について

(2) 令和5年度実施特徴的な事業

④おやじ達の企画事業（おやG7！）

◆地域の5つの小学校の「おやじの会」との連携事業

（八木山・八木山南・芦口・金剛沢・向山）

◆それぞれの小学校で活躍している「おやじ達」の交流機会を構築することを通じ、将来を担う地域人材の育成を目的として実施。令和5年度から立上げ、5校のおやじ達が夫々で「遊び場」を作り、地域の子供たちが楽しみ・触れ合う場ともなった。

◆令和6年度も継続を誓う！



企画会議



夜の交流会！

3. 地域コーディネート事業

(1) 活動支援業務

① 「仙台八木山防災連絡会」事務局の役割を生かして

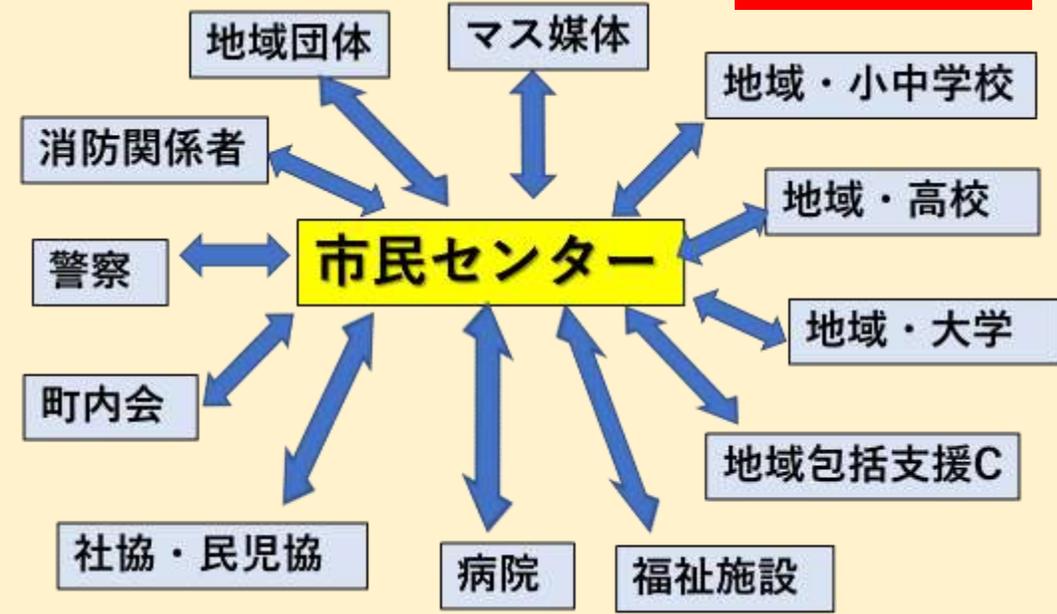


「仙台八木山防災連絡会」は、地域住民が、災害に対して安心して生活できることを目的に設立。現在地域45団体が加盟

センターが事務局

自主的な防災活動が評価され、平成30年に「防災功労者内閣総理大臣賞」を受賞

地域各団体と同会を通じて関係を構築。市民センター事業での連携のみならず、地域団体同士の連携等にも当たっても支援・相談等対応を図る



市民センターが、地域の「ハブ」としての役割を果たす

3. 地域コーディネート事業

(1) 活動支援業務

② 「八木山まちづくりプロジェクト」支援

- 「八木山まちづくりプロジェクト」で行っている
「八木山みんなのカフェ」を地域関係団体連携事業として実施
- 構成団体は、**「地区社会福祉協議会」「地区民生委員児童委員協議会」**
「地域包括支援センター」「東北工業大学地域とくらし共創デザイン研
究所」「八木山市民センター」

令和5年度は、市民センターを会場に5回、町内
会集会所での出張カフェ3回、合計8回開催

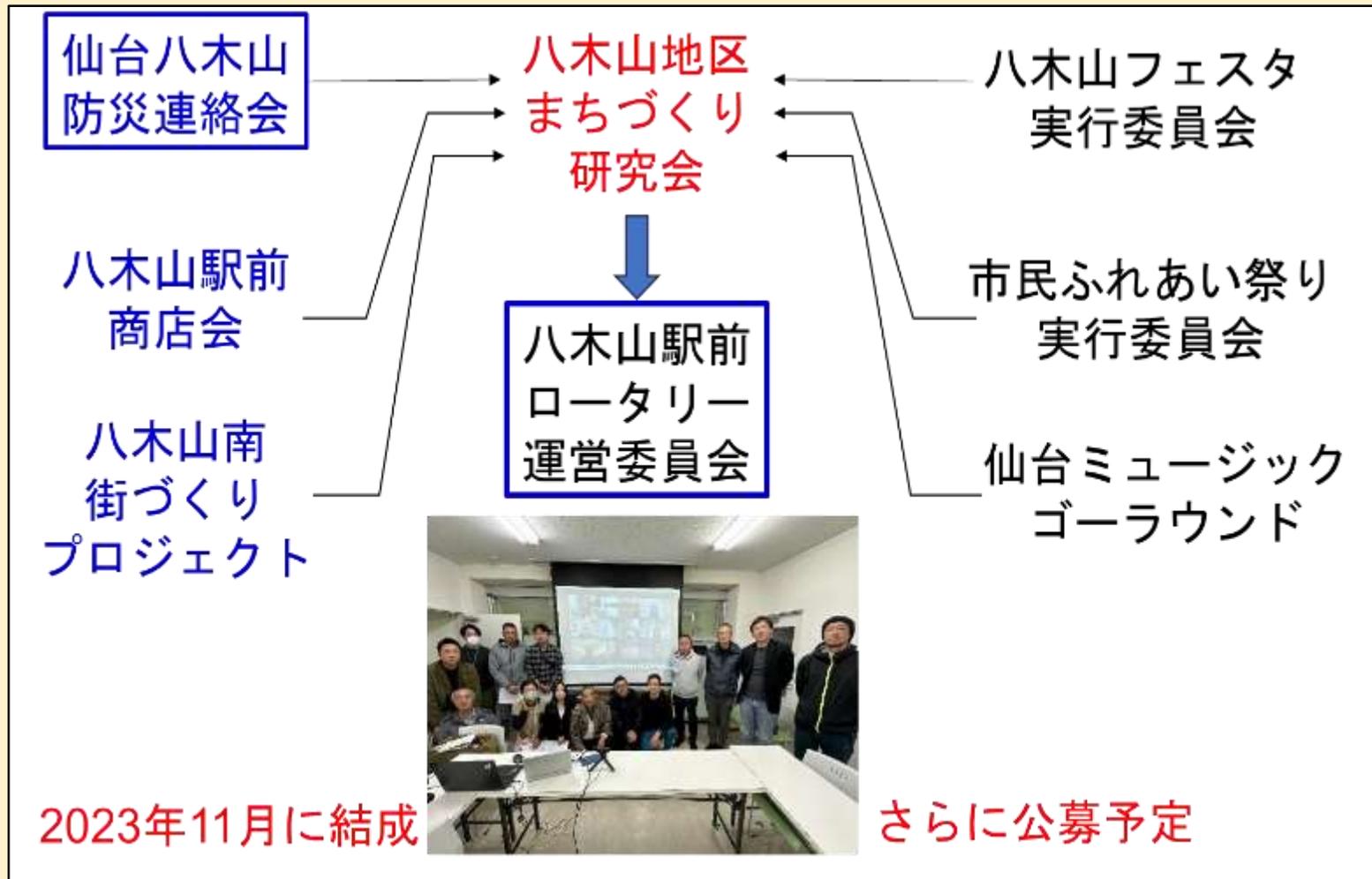
「スマホ交流会」5回、「ボッチャ交流会」3回
→ 「スマホ交流会」は、東北工大学生、仙台城南高校
生徒がボランティアサポート



3. 地域コーディネーター事業

(1) 活動支援業務

③ 八木山駅前ロータリー運営委員会活動支援



新たに増加してる「子育て世代」が自ら企画・運営することを通じて、地域の若い世代のネットワーク化を実現する

⇔ **市民センター**

八木山駅前ロータリー運営委員会と連携し、5月以降毎月開催されるイベント時のセンターとの連携事業を地域の各団体・組織を巻き込み調整・実施へ

4.特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」（旧・八木山市民センターまつり）

5年前まで「市民センターまつり」として開催→台風・コロナ禍で中止
最大の課題としては、出演者・出展者が、地域の高齢者団体が中心！

◆小中学生およびその保護者等、若い子育て世代が関心ない
「まつり」



5年前開催された
「市民センターまつり」ステージ発表風景

子供たちの歓喜、
子育て世代の活気が一部発表を除き
ない……



4. 特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

子供たちの参画に向けてステップ

第1ステップ

地域の小学校・中学校と児童・生徒の「自主性」「自律」に向けての取組と地域との交流に関する打ち合わせ実施 → 「旧・市民センターまつり」への参画を同意

第2ステップ

地域の小学校・中学校各PTA会長へ、子ども達の「自主性」「自律」実現の場として「まつり」企画から運営まで携わることの支援を依頼 → 快諾

第3ステップ

旧・「市民センターまつり実行委員会役員（正・副会長）」へ、子ども達の「自主性」「自律」および地域交流実現に向けて、子ども達だけによる「企画会」を立ち上げ、「まつり」の企画段階から運営まで携わることを提案 → 快諾

第4ステップ

「まつり」名称を「八木山市民ふれあいまつり」と改称し、子ども達による「企画会」会の役割を「まつり実行委員会に提案 → 承認

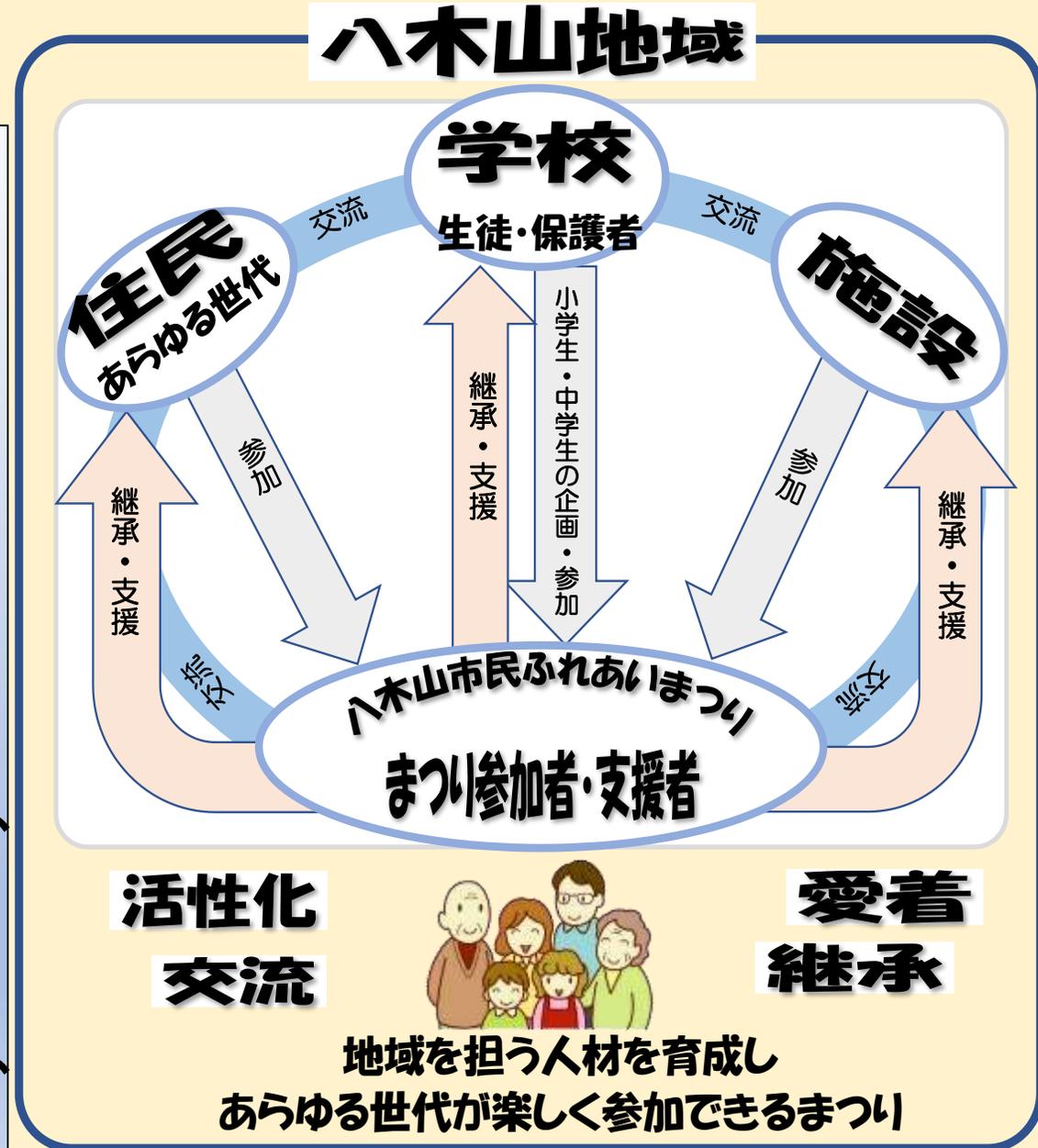
4. 特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

「まつり」の開催目的を改め、名称も変更

(1) 開催目的

- ① 八木山地域の住民相互の交流と地域の活性化を推進する
- ② 八木山地域住民相互の連帯感を高めるとともに、八木山地域への愛着心の高揚を図る
- ③ 八木山市民センター利用団体および八木山地域住民の交流の場とする
- ④ 八木山市民センター利用団体、地域町内会、地域子供会、及び地域小・中・高校・大学等の幅広い世代の交流促進の場とする
- ⑤ まつりが八木山地域交流の基幹拠点となり、地域の発展に期する



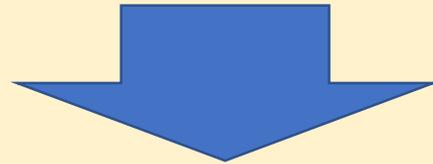
4.特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

こども達「企画員」の募集

地域の小学校・中学校を通じて子供たちの「企画員」を募集

→小学生（3年生～5年生）5名、中学生（1～2年生）6名
合計 11名が応募



5月から小中学校PTA会長・役員をサポートをいただきながら、5月～9月「まつり」開催前までに**計7回企画会を開催**し、「まつり」への子供たち企画の案だし、実行委員会での承認後の具体的実施案作り、**当日の運営について自分たちで決定し、実行に移した。**

4. 特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

「八木山市民ふれあいまつり」開催風景

キッチンカー

(オープニングセレモニー)



ステージ・司会



バルーンアート



4.特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

「八木山市民ふれあいまつり」開催風景

クイズ〇×大会

企画員が司会進行

八木山・八木山南
「おやじの会」
メンバーがサポート



4. 特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

ビンゴ大会

「八木山市民ふれあいまつり」開催風景

過去最高の来館者 & 参加者

企画員と東北工大・学園祭実行委員会
とのコラボによる司会進行



4.特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

(1)来場者の声（楽しかったモノ・企画会への意見他）

- 全て。史上最高の賑わいでした。
- ビンゴ大会・クイズ大会（みんなで楽しんで良い企画と感じます）
- こども達との交流
- 5年前までは大人の学芸会の印象が強かったが、今回は大人も子どもも一緒に参加できるのが大変良かった
- 若い企画会の力が良い

(2)出演・出展者の声（楽しかったモノ・企画会への意見他）

- 子ども達の参画は非常に良い試みだと思います。是非これを発展させてほしい
- 子ども達も協力しながら社会に参加するということは、次につなげる面でも大事だと思います
- 全ての年代の皆さんの参加で、大人も子ども楽しめる企画になったと感じた
- 子どもの参加が増えたことで親世代の参加も増えた。新しいものを取り入れ高齢者の方とも交流しながら、あらゆる世代が楽しめるまつりになって欲しい
- 新しい風が入り、「あらゆる世代が楽しく参加できるまつり」は成功だった

4.特色ある事業の紹介

「八木山市民ふれあいまつり」

(1) 5年度の企画会参加児童・生徒の地域活動について

今年度は、「八木山市民ふれあいまつり」をはじめ各種事業に生徒たちが企画から運営まで携わり、地域の方々と意思疎通を図ることができた。単発のボランティア活動だけでなく、ある一定期間継続して地域の方々と関わる機会は、地域の学校から、生徒の挑戦意欲を高め、自己肯定感の向上につながったとの評価をいただいている

(2) 6年度の児童・生徒の地域活動の方向性について

「まつり」含め市民センターが中心となる事業、また八木山地区で行われる各種イベント・催事に、児童・生徒が、企画から運営まで携わり、地域の方々と意思疎通を図れるよう地域の学校と連携を密にし、事業参画を実現を通じて、子ども達の成長に寄与する

5. 結び

八木山市民センターの今後の果たすべき役割

- 今までも、地域の様々な団体・組織・人と繋ぎ、事業を行い、またセンターをハブ機能として活動支援を行ってきた。
- 地域の特性として、長年住み続けた高齢者と新たな居住を始めた若い世代（子育て世代・こども達）が増加していることから、幅広い世代が交わることで、住みよい街づくりにつがるきっかけを創出し続ける。
- その実現をはかるために、今後も地域の学校と関係を一層密にし、子ども達の学びを通じた成長の場創りを行う。
- さらに、様々な事業・機会での幅広い世代間交流を通じ、多様な地域住民が、次世代の地域を担う人財形成となる機会構築・支援を行っていく。



こんな市民センターを実現するため……

5. 結び

八木山市民センターの今後の目指すべき姿

単発の事業だけでなく

連携事業・活動支援を通じて、地域を繋ぐ「ハブ」となり

各種連携を通じ、新たに地域を担う人財が集い

地域ネットワークがアメンバーのように拡散する

市民センターがそんな地域の一助となりたい

ご清聴

ありがとうございました